学校番号	３２５

平成 31 年度　国語科

教科	国語	科目	古典Ｂ（理・文理）	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	「精選古典Ｂ　改訂版」　（大修館書店）						
副教材等	『最新国語便覧』浜島書店 『新成　古典　大学入学共通テスト対策版』尚文出版 『大学受験超基礎シリーズ　マドンナ古文単語』学研 『シグマベスト　読解のための必修古典文法〔改訂版〕』文英堂 『シグマベスト読解のための必修古典文法準拠ノート』文英堂						

・一年生で学んだ基礎を定着させ、古典を読解するにあたり必要な知識を身につけましょう。
・さまざまな時代の文化や習慣等を理解し、より深い内容理解に取り組みましょう。

２　学習の到達目標

学んだ文語文法の知識を定着させて古典を読み解く。多くの古典を味わうことで、先人の知識、思想に触れ、自身の考えを豊かにする。文法面では敬語・助動詞の習得を目指す。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:読む能力	c:知識・理解
観点の趣旨	国語で伝えあう力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深めている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴や決まり、漢字や、慣用表現等について理解し、知識を身につけている。
評価方法	行動の観察 記述の点検 （ノート、小テスト、ワークシート、名作選 定期考査など）	行動の観察 記述の点検 （ノート、小テスト、ワークシート、名作選 定期考査など）	行動の観察 記述の点検 （ノート、小テスト、 ワークシート、名作選、定期考査など）

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点			単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c		
1	随筆	『方丈記』「行く河の流れ」	○		◎	a:興味を持って内容を理解しようと努めている。 c:本文中の助動詞について意味や接続を理解している。	a:行動の観察・記述の点検 c:記述の点検・行動の観察 小テスト 定期考査
1	歴史物語	『大鏡』「競べ弓」	○	◎		a:状況理解や、主語補充ができる。 b:本文中の敬語について敬語の種類や口語訳を正しく行うことができる。	a:行動の観察・記述の点検 b:行動の観察・記述の点検 行動の観察 小テスト 定期考査
2	漢文	『史記』「鴻門之会」	○	○	◎	a:漢文独特の響きに興味を持って繰り返し音読している。 b:本文の読みを通して言葉の意味を理解し、話の内容が理解できている。 c:訓点が付いている漢文を書き下し文にしたり、書き下し文をもとに、「白文」に訓点を付けることができる。	a:行動の観察・記述の点検 b:行動の観察・記述の点検 小テスト 定期考査 c:行動の観察・記述の観察・定期考査

2	日記・説話	『更級日記』「あこがれ」 『十訓抄』「大江山いくのの道」	○	◎	○	a: 内容を理解し、先人の言葉の巧みさを感じることができる。 b：助動詞や敬語を含む文章を正しく口語訳することができる。 c:国語便覧を通して、筆者の文学史的な位置づけを理解している。	a：行動の観察・記述の点検 b：行動の観察・記述の点検・定期考査 c：記述の点検・行動の観察
3	物語	『源氏物語』 「若紫」	○	◎	◎	a:興味を持って何度もよみ、ストーリーや登場人物の心情を理解しようと努めている。 b：重要語句を押さえながら、現代語訳が出来るようになり、かつ、内容の理解ができている。 c:国語便覧を通して、筆者の文学史的な位置づけを知ることができる。『源氏物語』の今回扱う章段の登場人物「桐壷の更衣」や誕生したばかりの「光源氏」が、その後、どうなっていくのか、あらすじを理解している。	a：行動の観察・記述の点検 b：行動の観察・記述の点検 定期考査 c：記述の点検・行動の観察 定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:読む能力
　　c:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。